

校長室から 第20号

本校の開校はいつなのか？ ～その3～

「学校の歴史を語る座談会」は、一 草分け時代の話、二 学校創立当時の状況、三 七重小学校時代、四 鉄道開通前後の発展状況、五 分村高等科併置市街へ移轉の5部構成になっています。「二 学校創立当時の状況」を転載します。

二 学校創立当時の状況

政井 草分け時代の思い出話はつきそうもありませんが学校創立当時の状況について聞かせてもらいませう。

目黒 私は瀬戸牛小学校の開校当時の入学生で第一回の卒業生です。学校は**上興部第一教育所**とって明治**四十一年二月**の開校です。場所は今の六興橋の上の公共用地に雁皮丸太の堀立小屋で五間に三間のものでした。屋根や壁は剥桎でふいてあって真中に長いストーヴがありました。吹雪の日等は雪がふきこんで外と同じ様でした。

政井 学校の立ったのは明治**四十二年**ではありませんか。

目黒 いや**四十一年**です。私は三十九年二月に来ましたが学校がないので二年遅れて学校に入ったのです。**四十一年**には間違はありません。

政井 学校の沿革誌には**四十二年一月**となって居るので昨年満二十五周年記念式をやったのです。それでは三十年記念式が一年早くなりますね。上興部の沿革誌を見ると四十二年の創立となって居るのにこちらを第一教育所と云い上興部を第二教育所と云ったのが不思議だと思ひました。それでは**沿革誌の書き誤り**ですね。もっとも**沿革誌は村上校長時代に始めて作ったらしい**ですが。

石田 **四十一年**に間違ありません。私の四十二才の厄年が明治**四十一年**ですから私はその時学校建築委員でした。

義達 私はその当時下川に居ましたが興部から三十九年生れの三才馬を買って帰たら逃げられまして追いかけて来たら丁度学校が出来て居たことを覚えて居ります。やっぱり**四十一年**ですね。

政井 これは大発見です。学校の歴史が一年のびました。その頃の生徒は何人位でした。

目黒 開校当時は十名程で二年目に十八人になりました。興部本校の校長先生は徳野良平さんのお父さんでした。建築委員として石田さん原田鉄五郎さん関喜傳治さん向井伊三郎さん川勝庄太郎さん等が一生懸命に骨を折って下さいました。

政井 建築についての苦心を承りたいと思ひます上興部が先に開けて人も多く居たのにこちらが先に立つのには随分苦心した事と思ひます。

石田 それはそれは大した熱心なものでした部落民一同辨当持参で公共用地から丸太を伐って来て立てました。そのため私は紋別の営林署まで引っぱられました。かうして皆共力して立てましたが全くその頃は部落全部が一家のようなものでした。学校に石油が二箱ありそれを四合瓶に一本づつ学校落成のお祝として贈ったことなど思ひ出します

政井 目黒さん当時の学校の授業の様子に就て話して下さい

目黒 商店がなかったので買物は皆名寄からです。鉛筆等は五分位になるまで使ひました。字は石板石筆で書きました。机は今と変りがない様です。原田さんが請負って作ったのです。

